



# 退会のお知らせ

1月11日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 1月11日のおはなし「退会のお知らせ」

---

「突然ですが、mixiやめます」

またか。と思う。ぎょっとするようなタイトルを付けておいて、見に行くと実は「読んだ人は必ずやる強制ボタン」、そういうのはうんざりだ。「離婚します」とか「会社やめます」とかそういうのも。もう本当にやめてほしい。「地雷」とか「釣り」とかかって面白がってるみたいだけど、すごく下品だと思う。だから私は「またか」と口に出して言ってやった。

でも次の瞬間、それがマイミクのtellaさんのタイトルだと気がついて、急に不安になる。tellaさんはそういう品のないことをする人じゃない。だとすると……。胸の内にひんやりとしたものが押し寄せてくる。こわごわタイトルをクリックして読みに行く。今日の日付が変わると同時にアップされたばかりのその日記は、本当に退会の告知だった。読み間違えじゃないか、何回も読み直したあと私はどうしたらいいかわからなくて「ホーム」をクリックして戻ってきた。

それで、いまこれを書いている。本当はtellaさんの日記にコメントするのが筋なんだろうけど、そんなの無理だ。何を書けばいいのかわからない。tellaさんはいつも通りの読みやすい文章で、しっかりとした落ち着いた感じで、「退会を決意するにいたった経緯」というのを書いていた。それを読んだらもう、退会を取り消すなんてことはないんだとわかってしまった。

どうしてやめなきゃいけないんだろう。「mixi疲れ」というのがあって、燃え尽きてやめてしまう人がいる、と、前にtellaさん本人が教えてくれた。それだろうか。でもtellaさんは、そんなに中毒みたいな感じではなかった。いつだって冷静で、気持ちのいい対応をする人だった。失礼なことを書く人がいても怒ったりすることもない。わからないことがあったら何でも教えてくれた。それもすごくわかりやすく。

tellaさんは入会当初からの大切なマイミクだったのですごいショックだ。私がほとんど義理で無理矢理mixiに入会することになって、使い方も分からず途方に暮れていた頃に偶然出会った。入会したはいいものの、一体何をするものなのか、何が面白いのか、身動きもとれないでいると、いきなり「HOME」のページに赤字でメッセージが届いているとか書いてあって驚いた。それがtellaさんからの誘いだった。

「mixi初心者のためのコミュニティがあるので入りませんか」

危険な詐欺とかじゃないかと心配しながら覗きに行くと、全然そんなことはなかった。本当に親切にいろいろな疑問に答えてくれるコミュニティだった。さっそく登録して、メッセージにも簡単なお礼を書いて出しておいた。そうしたらまた丁寧なメッセージが届いて、あれこれアドバイスをしてくれた。私が初めて日記を書いた時にも、真っ先にコメントをつけてくれてとても嬉しかった。

tellaさんの日記もいつもとても面白いことが書いてあって、読むだけで「へえー」と感心することばかりだった。人の日記にコメントをつけるのも勇気がいったけど、こわごわ「すごく勉強になりました」とか書き込んでみたら、とても丁寧な返事をもらえて。tellaさんがいると思うと安心だったし、mixiに入会して良かったと心から思えた。tellaさんには何でも話せた。とても個人的なことまで含めていろいろ相談できた。こんな人が本当にいるんだ、と何だか感動してしまっ

ひょっとして、もしもオフ会とかあって、この人に会ったらどうなるだろう。いままでの人生で出会ったどんな人よりも私のことをよくわかっているような気さえする。誤解を恐れずに言えば（いや、それは誤解じゃないかもしれない）、tellaさん、あなたは私にとって一番大切に特別な存在なんです。

そうだ。tellaさんのおかげでとても楽しかったことを伝えておこう。それからtellaさんがいなくなるのはとても残念だと言う気持ちをちゃんと言おう。引き止めるわけではなく、素直な気持ちを伝えよう。そう思ってもう一度「突然ですが、mixiやめます」の日記にアクセスしてぎょっとした。たったいま、私が書こうと思ったのとそっくりな内容のレスがわずか30分ほどの間に85件も書き込まれていた。

ふと気になってtellaさんのマイミクシー一覧を見に行くと1000人のマイミクさんがいた。mixiIDを確認しながら見て行くと、その1000人のIDナンバーは続き番号と言ってもいいくらい同じような番号で固まっていた。全部1790万番台だったのだ。私のIDはその固まりの真ん中くらいにあった。どういうことだろう？ マイミクさんというのはこんな風に番号で固まるものなのだろうか？

突然思いついてtellaさんが入っているコミュニティ一覧を見る。すると、あんなにmixiを活用していたtellaさんが、意外なことにあの「mixi初心者のためのガイドツアー」というコミュ以外には何も登録していない。1つしか登録していないなんて。あれだけ話題が豊富で、mixiの楽しい使い方にも通じているtellaさんが、コミュニティを利用していないなんて、どう考えたらいいのだろうか？

どうして思いついたのか、自分でも分からない。新着日記の一覧ページで「突然ですが、mixiやめます」という文字を入れて検索してみた。ずらずらと強制ボタンが出てくる中に、たった今読んだばかりのtellaさんの日記と全く同じ文章を書いている人が何人もいる！ 試しに「いまだ部長」という人のところを訪れる。日記の内容は一言一句同じで、マイミクシー一覧には1000人いて、そのIDは1000万を少し超えたところに固まっている。コミュニティは「mixi初心者のためのガイドツアー」しかない。

どういうこと？ 別な人のところを訪れる。「yumi\_yumi」という女性のページだ。なのに日記の内容はtellaさんと全く同じ。1000人のマイミクシーのIDは1480万番台に固まっている。不意に私はぞっとする。何なの、これは？ tellaさんって何者なの？ この全く同じ文章を書いている人たちは誰なの？ どうしてマイミクシーの番号がこんなに固まっているの？

tellaさんは実在する人なんだろうか。突然思い出す。日記やメッセージを通じて、私は住んでいる地域のことや、ケータイの番号や、暗証番号をどうやって決めるかという話など、本当なら軽々しく人に言うてはいけない話をたくさんしてしまった。何かとんでもないことが起こらなければいいけれど。そう思った瞬間、ケータイが鳴り始めた。時計を見ると午前2時半。わたしはケータイに触れることもできず、ただ見つめるしかない。ケータイは鳴り止まない。

(「mixi」 ordered by こあ--san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 退会のお知らせ

<http://p.booklog.jp/book/42159>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42159>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42159>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.